

歴史・文化サイトカード

通しNo.	1-C-8	更新日	2025/2/20
サイト名	銅剣358本の出土と古代出雲王国の再考～ <small>こうじんだに</small> 荒神谷遺跡		
基本情報	区分	<input type="checkbox"/> 有形 <input type="checkbox"/> 無形 <input checked="" type="checkbox"/> その他	
	所在地	出雲市斐川町神庭873番地8	
	指定別	「荒神谷遺跡」国指定	
	種別	史跡名勝天然記念物	
	指定／登録年月日	1987(昭和62)年1月8日	
	管理団体／モニタリング	出雲市	
	周辺施設／アクセス	<input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 売店 <input type="checkbox"/> 飲食店 <input checked="" type="checkbox"/> 駐車場(台)	
留意点			
サイトの解説	歴史・文化	1984(昭和59)年7月、斐川広域農道建設のための発掘調査で、斐川町神庭の谷奥にある斜面から銅剣358本が出土した。358本の銅剣はそれまでに全国で発見されていた本数を上回る量であった。 また、翌年7月には、銅剣発見の場所から7m離れた地点から銅鐸6個、銅矛16本と一緒に埋納されていることが明らかとなった。銅鐸・銅矛が同一の場所に埋められている例はこれまでなく、銅剣を含めた三種の青銅器が、同一の遺跡から出土することも全国で初めてだったことから、この歴史的発見により、古代出雲の歴史が大きくクローズアップされることになった。 現在は史跡公園として整備され、遺構面を保護した上に発掘当時の様子が復元されている。 なお発掘された青銅器は国宝に指定され、古代出雲歴史博物館(出雲市大社町)で一括展示されている。	
	地形・地質、生物・生態等	遺跡は、宍道湖南岸の丘陵地をつくる泥質砂岩の布志名層の分布域にある。この地域の谷間の平野は縄文海進以降に形成されており、奈良時代には宍道湖の南西側湖岸が出雲市斐川町直江付近にあったと考えられている。発掘された銅剣が弥生時代中期後半に作成されていることからすると、埋納の時期には宍道湖岸は直江に近いか、または少し西の方にあったとみられる。	
写真・図等			
	荒神谷遺跡		
参考文献			